

糸崎の良さを伝える

ぼくは、糸崎小学校に通っています。糸崎小学校には他の学校がしていないことがあります。それは、『三原を元気にするために』八天堂とコラボをしていることです。

昨年ぼくたちは、三原がここ最近、人口が減っているのを知りました。このままでは三原から元気がなくなってしまうです。そこで、糸崎小学校五・六年生が『三原を元気にするために』立ち上がりました。全国に名の知れた八天堂が新商品を作って売れば、三原に人が来て三原が元気になると考えたのです。そこで、今年はスイーツバーガーグランプリに出場することに決めました。初めは意見が交ざってなかなか決まらなかったけど、タブレットを使って考えを深めたり、決まった意見を八天堂さんに聞いてもらったりした結果、「苺大福バーガー」に決まりました。

グランプリに出したら、審査員特別賞をもらいました。

この取り組みを通してわかったことがあります。それは、「糸崎の良さ」は、「仲間の良さ」ではないかということです。素晴らしいアイデアも昨年の六年生、今年の五年生・・・そして、ぼくたち六年生がいないと創り出せなかったのだと思います。

将来、三原の人口が増えていくことをぼくたちは願っています。そのために、この大切な仲間と一緒に何ができるかをこれからも考えていきたいです。

渡辺和子さんは「わたしたちには、自分が変わる自由が与えられている」と言われます。ぼくは、渡辺和子さんの言うとおり、自分そして、三原を変えていきたいです。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第32回 —

未来につなぐ「三原魂」

ぼくたちの学校は、百四十五年という長い歴史をもつ小学校で、昔から続いている多くの伝統があります。

まず、三年生の時には、かつて神明市で行われていた「だるま行列」の六十年ぶりの復活に参加しました。ぼくたちは、三原市を盛り上げるため、そして、人々を笑顔にし、もっとたくさんの人に来てほしいと願いながら、復活だるま第一号として行進しました。このだるま行進は、新たに三原小学校の伝統に加えられました。

また、三原やっさ祭りの「やっさ踊り子ども部門」にも、毎年参加しています。ぼくたちは、「子どもやっさ大賞」をめざして、笑顔で練習をがんばりました。そこで友達同士の心をつなぎ、協力することの大切さを学ぶことができました。

そして、最も長く大切に伝えられてきたものに、運動会や音楽発表会で行われる「鼓笛隊」があります。これは、三原小学校の五年生が、六年生から楽器の使い方や手入れ、演奏の仕方を教わり、代々引き継がれているものです。「鼓笛隊」は行進しながら行うので、ふり付けを覚えたり歩幅をそろえたりするのが大変で、何度も練習を重ねなければなりません。ぼくは小太鼓を担当しましたが、小太鼓を手にした瞬間、歴代の先輩方からずっと引き継がれているものが、自分の手に渡ってきたということを実感し、わくわくしました。それと同時に、後輩たちにつないでいきたいという責任感もわいてきました。

ぼくたちは、三原小学校のこのような伝統を次の世代につなぐとともに、新たな挑戦をすることで、これからも高みをめざし、さらに「三原魂」を進化させていきたいと思っています。

